

# ISWC2006 参加報告

戸田 真志      秋田 純一  
公立はこだて未来大学      金沢大学

## 概要

今年で 10 回目を迎える ISWC2006 (International Symposium on Wearable Computing) は、スイス Montreux 駅前の Grand Hotel Suisse-Majestic (図 1) を会場に、2006 年 10 月 11~14 日の 4 日間で開催された。ISWC2006 に引き続き、同じ Montreux にて、10 月 15~18 日の期間で UIST2006 も開催されたため、両方の会議に参加した方も多かったようである(筆者らは残念ながら ISWC2006 のみで帰国の途についた)。本年は 16 カ国から 85 件の投稿があり、査読の結果、口頭発表 17 件 (Long paper 8 件、Short paper 9 件)、ポスタ発表 18 件の計 35 件が採択された。投稿の内訳、採録数、採択率を表 1 にまとめる。

表 1 投稿数、採択数、採択率

形態	投稿数	採択数	採択率
Long paper	44	8	18.2%
Short paper	21	9	42.9%
Poster	20	18	81.8%
計	85	35	

11 日の午後から 13 日までがいわゆる本会議であり、最終日の 14 日はチュートリアル (午前セッション 2 件、午後セッション 1 件、終日セッション 1 件) が開催された。

本会議は前述した口頭発表、ポスタ発表に加えて、2 件の招待講演、パネル討論会、デモセッションが開かれていた。



図 1 本会場 (Grand Hotel Suisse-Majestic)



図 2 受付の様子

## 招待講演、パネル討論

1 件目の招待講演は、ISWC2006 の最初のプログラムとして、11 日 14:00~15:00 で行われた。講師は稲見氏 (電気通信大)

で、タイトルは “Augmented Human Perception: Interfaces to Enhance the Human Capacity for Perception and Expression” であった。Augmented RealityとWearableというキーワードでの稲見氏のさまざまな研究成果について、デモ映像を交えながら紹介して頂いた。

2件目は12日9:00～10:00で行われた。講師はMichael Lawo氏（University of Bremen）で、タイトルは “WearIT@work - Towards Real Life Industrial Applications of Wearable Computing” であった（図3）。Lawo氏はウェアラブル基盤のオープン化に関する活動をしており、その中で医療や機器メンテナンス分野など、さまざまな分野での実験も行っている。この活動に関する紹介であった。なお、稲見氏の研究成果については[1]、Lawo氏の活動については[2]を参照頂きたい。

また、13日11:00～12:00ではMobile phoneに関するパネルディスカッションも行われた。パネラーは、Mark Smith氏（KTH）、Mat Hans氏（Motorola）、Thad Starner氏（Georgia Tech）、Jukka Linjama氏（Nokia）、Tom Martin氏（Virginia Tech）の5氏であった。



図3 招待講演（Lawo氏）



図4 パネルディスカッション

#### 一般講演

一般講演は3日間、6セッションにて実施された。ベストペーパーは、

- David Minnen, Thad Starner, Irfan Essa and Charles Isbell, “Discovering Characteristic Actions from On-Body Sensor Data”
- Gábor Blaskó and Steven Feiner, “Evaluation of an Eyes-Free Cursorless Numeric Entry System for Wearable Computers”
- Leah Buechley, “A Construction Kit for Electronic Textiles”

の候補のうち、“A Construction Kit for Electronic Textiles”（Leah Buechley氏）が選ばれた。シングルトラックであったこともあり、どの発表の時には図5のように聴講者が多く、活発な議論がなされていた。



図 5 一般講演



図 6 One minute Madness の様子

### ポスタ/デモ発表

ポスタ/デモ発表は 11、12 日の夕方に行われた。両日共にポスタセッションに先立ち、各発表者が自身の研究を 1 分以内で紹介する One minute Madness が行われた（図 6）。初日（11 日）のポスタセッションは 17:00～20:00 の 3 時間であり、途中からレセプションを兼ねた形式で、酒類を含む飲み物が給仕されていた。議論は大変活発に為され、規定の 20:00 を超えてもなお議論を続ける発表も散見された。2 日目（12 日）は 16:30～18:30 と若干時間が短かったが、初日同様活発な議論が繰り広げられた（図 7）。なお、12 日のポスタセッション時には、並行して（別部屋にて）デモセッションも開催された（図 8、図 9）。デモは 9 件が出展されていた。



図 7 ポスタセッションの様子



図 8 デモセッションの様子（1）



図 9 デモセッションの様子 (2)



図 11 Gadget Show (2)

### その他

全ての講演が終了した 13 日の 15:15 からは、ISWC 恒例の Gadget Show も行われた (図 10、図 11)。これは、参加者自慢の Gadget を披露し合う会で、発表のための事前申し込み等は不要である。今年は 10 件弱が披露された。



図 10 Gadget show (1)

### 次回開催予定

次回の ISWC2007 はボストンでの開催が決定している。本分野の更なる発展のためにも、皆様の積極的な投稿を期待する。

### 参考文献

- [1] 電気通信大学知能機械工学科 ヒューマンインタフェース分野 稲見研究室  
<http://www.hi.mce.uec.ac.jp/inami-lab/ja/index.html>
- [2] Open Wearable Computing Group  
<http://www.owcg.org/>
- [3] ISWC2006 ウェブサイト  
<http://www.cc.gatech.edu/ccg/iswc06/>